

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
287	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
The aetiology of upper aerodigestive tract cancers among young adults in Europe: the ARCAGE study. 若年者における気道がん、消化器がんについて	
<b>執筆者</b>	
Macfarlane TV, Macfarlane GJ, Oliver RJ, Benhamou S, Bouchardy C, Ahrens W, Pohlbeln H, Lagiou P, Lagiou A, Castellsague X, Agudo A, Merletti F, Richiardi L, Kjaerheim K, Slamova A, Schejbalova M, Canova C, Simonato L, Talamini R, Barzan L, Conway DI, McKinney PA, et al.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Cancer Causes Control. 2010 Dec;21(12):2213-21.	
<b>キーワード</b>	
喫煙、飲酒、口腔がん、喉頭がん、食道がん、若年者	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 口腔がんや喉頭がん等の気道のがんや食道がん等の消化管のがんは世界的に増加している。その増加割合は若年者で多く認められる。一部の文献ではこれらの気道のがんや消化管のがんの患者に喫煙習慣や飲酒習慣を伴わないことが報告されている。そこで、50歳未満の若年者において、これらのがんに影響を及ぼす生活習慣要因を明らかにすることとした。</p> <p><b>方法：</b> 欧州10カ国において症例・対照研究を実施した。症例は口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、食道がんとし、対照は性別と年齢をマッチした院内患者、もしくは一般地域住民とした。これらのがんに対するオッズ比(OR)と95%CI(95%信頼区間)を算出した。</p> <p><b>結果：</b> 50歳未満では356例のがん症例と、419例の対照において検討を行った。喫煙はがん発症のリスク上昇と強い関連を認めた(OR(95%CI)=(5.5(3.2-9.5))。喫煙本数の増加とともにがん発症のリスク上昇を認めた。飲酒は現在飲酒も過去飲酒もがん発症のリスク上昇と関連を認めた (OR(95%CI)=現在飲酒 1.8(0.97-3.3)、過去飲酒 3.4(1.6-7.4))。飲酒年数の増加とともにがん発症のリスク上昇を認めた。果物と野菜の摂取頻度が多い者はがん発症のリスク減少を認めた。</p> <p><b>結論：</b> 若年者の気道のがんおよび消化管のがんのリスク要因は高齢者で明らかにされている要因と同様であった。若年者においても高齢者と同様のがん予防啓発をすべきである。</p>	